

J-STAGE システム概要

- 編集掲載系サービス概要 -

<第 1.10 版>

平成 29 年 9 月

国立研究開発法人 科学技術振興機構

変更履歴

No.	版	日付	区分	変更内容	変更箇所
1	1.00	2015/11/30	新規	初版作成	
2	1.10	2017/09/25	更新	画面イメージを最新版に張替え XML 登載と Web 登載の差異からプレビュー部分を削除	1.4. XML 登載サービス Web 登載サービスの違い 1.5. 書誌事項ファイル (XML ファイル) 形式

編集掲載系サービス概要

目次

1. はじめに.....	1
1.1. 本書の構成.....	1
1.2. 編集掲載系サービス全体像.....	2
1.3. 各機能の位置づけ.....	2
1.4. XML 掲載サービスと Web 掲載サービスの違い.....	3
1.5. 書誌事項ファイル (XML ファイル) 形式.....	5

本書の著作権は、原則として国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）に帰属します。これらは、著作権法上認められた範囲において使用することは可能ですが、転載、複製、公衆送信、翻訳、商用利用などを行う際には、著作権者の承諾を得る必要があります。

1. はじめに

本書の位置づけは J-STAGE システム編集掲載系サービスの全体像を説明する資料です。

本書には、ログイン後に使用可能なサービスの概要を説明しております。

なお本書に掲載している J-STAGE 画面の入力値等、一部 J-STAGE 操作マニュアルと異なる箇所があります。

また、本書に掲載している論文データ等は説明用のものであり、実際とは異なります。

1.1. 本書の構成

本書は、以下の順で構成されています。

サービス全体像

各サービスの位置づけ

XML 掲載サービスと Web 掲載サービスの違い

1.2. 編集掲載系サービス全体像

J-STAGE システムの編集掲載系サービスは、図 1.2 に示すように XML 掲載サービスと Web 掲載サービスがあり、編集掲載系サービス利用者は、利用目的に合わせて XML 掲載サービスと Web 掲載サービスを使い分けることができます。

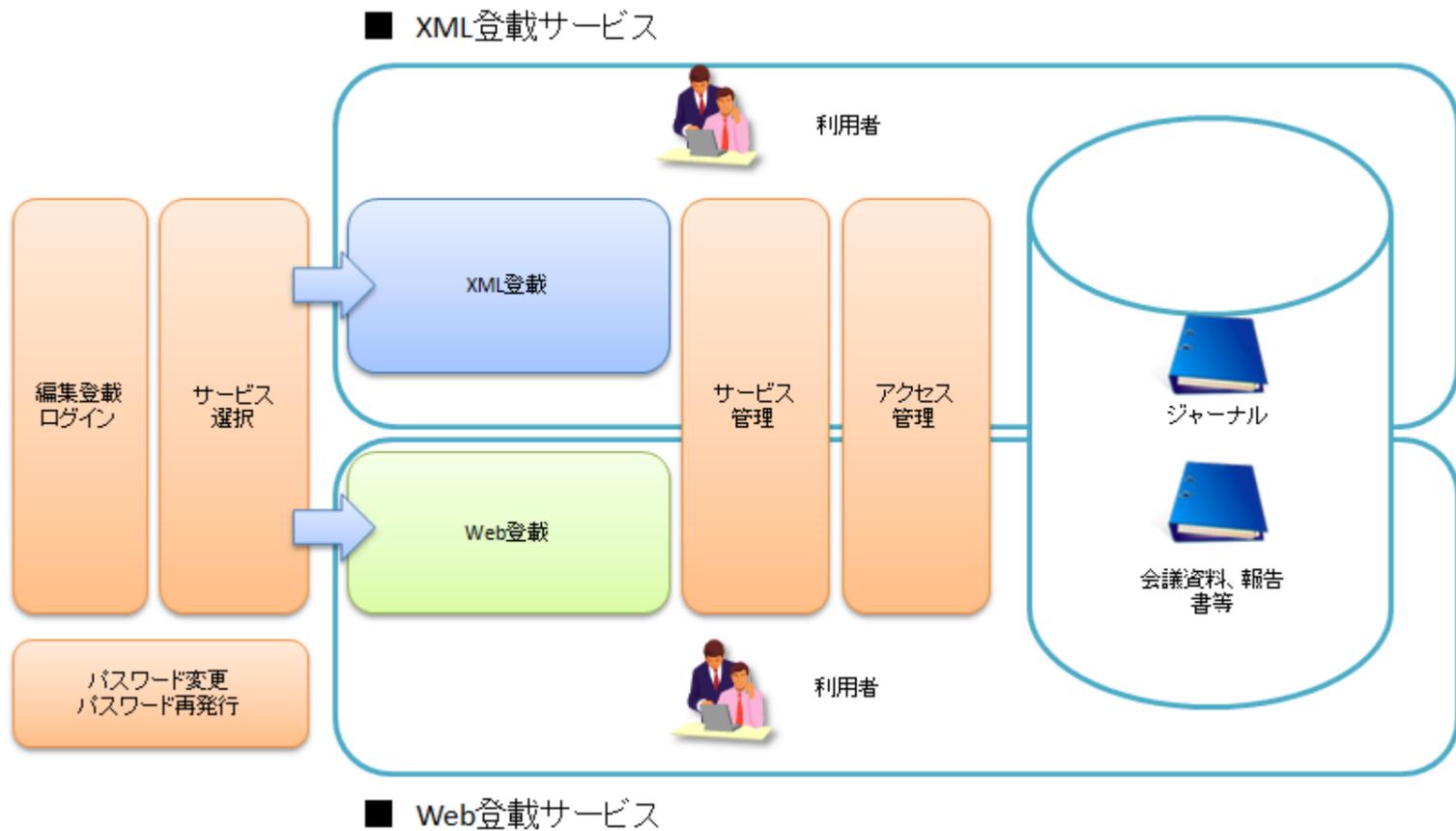


図 1.2 編集掲載系サービス全体像

1.3. 各機能の位置づけ

編集掲載系サービスで利用できる機能の位置づけは、表 1.3 に示す通りになります。

表 1.3 機能の位置づけ

機能	機能概要
編集掲載 ログイン	編集掲載系サービスへのログイン
サービス選択	XML 掲載サービスと Web 掲載サービスの切り替え
パスワード変更、 パスワード再発行	パスワード変更、パスワード再発行
XML 掲載	XML ファイルを使用して記事を掲載
Web 掲載	Web 画面から書誌事項を入力し記事を掲載
サービス管理	公開する資料の各種設定
アクセス管理	公開記事の各種認証設定（ID/PW 認証、IP レンジ認証、PPV）、掲載者のアカウント発行管理

1.4. XML 登録サービスと Web 登録サービスの違い

(1) 各サービスの特徴

XML 登録サービスと Web 登録サービスは、表 1.4.1 に示す様な特徴があります。利用者は利用目的に合ったサービスを自由に選択し、記事の登録を行うことが可能です。

表 1.4.1 各サービスの特徴

サービス	特徴
XML 登録	XML ファイルを使用して記事を登録するサービスです。 複数の記事を一度にアップロードすることができます。 また、アップロードした記事の修正、セクション作成、記事表示順の設定、記事の早期公開など、Web 登録サービスにはない詳細な編集機能を利用できます。
Web 登録	Web 画面から書誌事項を入力し登録するサービスです。登録は 1 記事ずつですが、XML ファイルを使わず簡易に記事の登録を行うことができます。 巻号の作成やセクションの作成、記事表示順の設定などはシステムが自動で行うため、少ないステップで記事の公開が可能です。

(2) 記事登録に必要なデータ

記事登録には、表 1.4.2 に示すデータ（ファイル）が必要になります。

表 1.4.2 各サービスの特徴

ファイルの種類	内容
書誌事項ファイル (XML ファイル)	記事の書誌情報（タイトル、著者、抄録等）や付属情報（関連キーワード、引用文献等）を記載した XML ファイル
本文 PDF ファイル	記事本文の PDF ファイル
全文テキスト ファイル	記事検索（全文検索）のインデックスに使用されるテキストファイル

1 つのファイルに、複数の論文の情報を記載することはできません。

XML 登録サービスと Web 登録サービスでは、表 1.4.3 に示す様に、記事を登録する際に準備が必要なデータが異なります。

表 1.4.3 記事の登録に必要なデータ

サービス	書誌事項ファイル (XML ファイル)	本文 PDF	全文テキスト
XML 登録	○ ※ 1	◎	◎
Web 登録	不要 ※ 1	◎ ※ 2	不要 ※ 2

◎：必須、○：条件付き必須

※ 1：画面から直接入力して 1 記事毎に作成する場合は不要

※ 2：本文 PDF が透明テキスト付き PDF の場合はシステムが全文テキストを自動抽出

(3) XML 登載サービスと Web 登載サービスの差異

記事の登載は Web 登載サービスを使用し、より細かな設定が必要な場合のみ XML 登載サービスに切り替えて各種設定を行うといった使い方も可能です。XML 登載サービスと Web 登載サービスには表 1.4.4 に示す差異があります。

設定方法の詳細は、対応する操作マニュアルを参照してください。

表 1.4.4 XML 登載サービスと Web 登載サービスの差異

機能	XML 登載	Web 登載	XML 登載を使用した設定	操作マニュアル
公開日の一括設定	複数記事一括設定可能	1 記事毎に設定	公開日が同じ記事の公開予定日を複数記事一括で設定する	【より詳細な活用のために】 記事の一括公開日設定方法
セクション名編集、複数セクション作成、セクション階層表示設定	セクション編集可能	× (1 セクションのみ)	目次画面に複数のセクションを表示する	【より詳細な活用のために】 目次編集方法 (セクションの追加・編集)
記事の表示順変更、記事のソート	表示順変更可能	× (ページ順固定)	目次画面の記事表示順を変更する	【より詳細な活用のために】 目次編集方法 (記事の並べ替え)
書誌データ並べ替え	登録後変更可能	× (登録順固定)	書誌データ (著者、キーワード、引用文献等) の並べ替えを行う	【より詳細な活用のために】 書誌データ (著者、キーワード、引用文献等) 並び順変更方法
巻情報編集、号情報編集	公開後も編集可能	新規巻号作成時のみ	巻情報、号情報を編集する。巻号のカバー画像を設定する。	【より詳細な活用のために】 巻情報編集、号情報編集方法
記事認証の自動切換え設定	認証開始日、認証終了日の設定可能	× (自動切換え不可)	認証開始日、認証終了日を設定し、指定した日付になったら自動的に記事の認証状態を切り替える	【より詳細な活用のために】 記事認証状態の自動切換え (認証開始日、認証終了日の設定) 方法

1.5. 書誌事項ファイル（XML ファイル）形式

(1) 書誌事項ファイル（XML ファイル）形式

XML 登載サービスで記事を登載する際の XML ファイル形式は、表 1.5.1 に示す様に 4 種類存在します。
ファイル形式の詳細は、「J-STAGE3XML データフォーマットガイドライン」参照。

表 1.5.1 XML ファイル形式

XML ファイル形式	特徴
BIB-J	記事の書誌情報、キーワード、引用文献情報等を記載した形式 ジャーナル、研究報告・技術報告、解説誌・一般誌、その他用
FULL-J	BIB-Jに加え、全文情報を記載した形式
BIB-P	記事の書誌情報、キーワード、引用文献情報等を記載した形式 会議論文・要旨集用 BIB-Jとは、必須入力項目に違いあり
FULL-P	BIB-Pに加え、全文情報を記載した形式

全文情報を含む FULL-J、FULL-P の場合には、以下の様に XML ファイルより全文 HTML 画面をシステムが自動生成し公開されます。

過去の巻号

過去の巻号

55 巻, 2 号

選択された号の論文の13件中1~13を表示しています

メタデータをダウンロード すべての抄録を表示する

60 巻 (2017) +

59 巻 (2016) +

58 巻 (2015) +

57 巻 (2014) +

56 巻 (2013) +

J-STAGE新システムが加速する国内学術論文誌の電子化と流通

佐藤 竜一, 久保田 壮一, 青山 幸太, 土屋 江里, 宮川 謹至

55 巻 (2012) 2 号 p. 106-114

公開日: 2012/05/01

DOI | <https://doi.org/10.1241/johokanni.55.106>

ジャーナル フリー HTML

抄録を表示する PDF形式でダウンロード (1683K) HTML形式で全画面表示

全文 HTML

全文 HTML

J-STAGE新システムが加速する国内学術論文誌の電子化と流通

佐藤 竜一, 久保田 壮一, 青山 幸太, 土屋 江里, 宮川 謹至

キーワード: 電子ジャーナル, XML, 認証, 投稿審査, 電子化, 自然科学, 人文社会

55 巻 (2012) 2 号 p. 106-114

DOI | <https://doi.org/10.1241/johokanni.55.106>

PDFをダウンロード (1683K)

メタデータをダウンロード

RIS形式 (EndNote, Reference Manager, ProCite, RefWorksとの互換性あり)

BIB TEX形式 (BibDesk, LaTeXとの互換性あり)

テキスト

ダウンロード方法

発行機関連絡先

記事の概要

著者抄録

1. はじめに

2. J-STAGEの現状と課題

3. 新システムの特徴

4. 国内学術論文誌の電子化状況

5. J-STAGEの役割と今後の方向性

6. おわりに

科学技術振興機構 (JST) が運用する電子ジャーナルサイト「J-STAGE」は、運用開始から13年が経過し、海外の有力電子ジャーナルサイト等と比較すると、ユーザーインターフェースや機能面を中心にその陳腐化が否めない状況であった。JSTではユーザビリティの向上、国際発信力のさらなる強化を目的として、新システム「J-STAGE3」を開発し、(1)過去分の公開サイトであるJournal@rchiveの統合、(2)デザイン/ユーザーインターフェースの一新、(3)データベース形式のXML国際標準形式への移行、(4)購読・販売管理機能の強化、(5)学協会運用工数の削減および(6)投稿審査システムの改善を実現する。一方で、2010年度末に国内学術論文誌の電子化状況について調査した結果、国内学術論文誌の電子化率は全体で62%であったが、人文社会系は34%と依然遅れている。また、言語別で見ると英文誌92%に対して和文誌は55%という結果になり、さらなる電子化の推進が必要な状況にあることが判

書誌事項

書誌事項

J-STAGE新システムが加速する国内学術論文誌の電子化と流通

佐藤 竜一, 久保田 壮一, 青山 幸太, 土屋 江里, 宮川 謹至

キーワード: 電子ジャーナル, XML, 認証, 投稿審査, 電子化, 自然科学, 人文社会

ジャーナル フリー HTML

55 巻 (2012) 2 号 p. 106-114

DOI | <https://doi.org/10.1241/johokanni.55.106>

詳細

記事の概要

抄録

科学技術振興機構 (JST) が運用する電子ジャーナルサイト「J-STAGE」は、運用開始から13年が経過し、海外の有力電子ジャーナルサイト等と比較すると、ユーザーインターフェースや機能面を中心にその陳腐化が否めない状況であった。JSTではユーザビリティの向上、国際発信力のさらなる強化を目的として、新システム「J-STAGE3」を開発し、(1)過去分の公開サイト

本文 (HTML形式)

PDFをダウンロード (1683K)

メタデータをダウンロード

RIS形式 (EndNote, Reference Manager, ProCite, RefWorksとの互換性あり)

BIB TEX形式 (BibDesk, LaTeXとの互換性あり)

テキスト

ダウンロード方法

発行機関連絡先

お気に入り & アラート

お気に入りに追加

追加情報アラート

被引用アラート

認証解除アラート

(2) 資料種別と XML ファイル形式

記事を登載する際の XML ファイル形式は、資料種別により表 1.5.2 に示す様に使用するファイル形式が異なります。

表 1.5.2 資料種別と XML ファイル形式

資料種別	BIB-J	FULL-J	BIB-P	FULL-P
ジャーナル	○	○	—	—
会議論文・要旨集	—	—	○	○
研究報告・技術報告	○	○	—	—
解説誌・一般誌	○	○	—	—
その他	○	○	—	—